

第38回東京同窓会報告

第38回川辺高等学校東京同窓会総会を前日に控えた平成26年6月20日(金)、新宿ワシントンホテルで、東京同窓会役員・今年度総会の幹事の代表の方々9名と、鹿児島から上京した大坪憲市(昭和41年卒)本部同窓会会長、昭和42年～46年まで川辺高校に英語教諭として在職された馬渡武弘先生、学校からは、小屋敷浩昭校長先生、中尾龍二(昭和52年卒)同窓会係の4名との交流会が開かれました。交流会は、東京同窓会の幹事長も兼務されている小原東洋明(昭和38年卒)東京同窓会副会長の司会進行の下、和やかな雰囲気の中で進みました。会の中では、大坪同窓会会長・小屋敷校長先生から、川辺高校へのご支援のお礼や近況報告等がありました。また、川辺高校生に対して、社会人になってからの大切な心がけ等貴重なご意見を伺うこともできました。東京同窓会の方々の、立派な社会人になってほしいという後輩たちへの想いと愛情が感じられる会となりました。

翌21日(土)、同じホテルで、東京同窓会総会・懇親会が昨年よりも50名以上多い215人が集まって盛大に開かれました。総会に先立ち、11時から叶芳和先生(日本経済大学大学院教授・ウィリアムマイナー農業研究所客員教授)により、「アジアの相互依存関係の変化と日本の行方」という演題での特別公演がありました。その後、高倉都(昭和46年卒)さんの司会進行のもと、東京同窓会総会が開かれました。亡師亡友への黙祷の後、大平政弘(昭和34年卒)東京同窓会会長から、母校繁栄のために努力・協力することと東京同窓会の会員相互の親睦を図ることがこの会の目的である、とのあいさつがあり、会務報告・会計報告等の議題が滞りなく進行し、総会が終了しました。

懇親会では、来賓を代表して大坪憲市本部同窓会長から、各地区同窓会の皆さんの母校を思う気持ちがあればこそ川辺高校もより良い学校になれるという感謝の言葉があり、小屋敷校長先生は、生徒数は少なくなったが、生徒一人ひとりが充実感を持ちながら生活し存在感のある学校を目指したい、とあいさつされました。次に、担当年度幹事(卒業年度に6のつく学年)の方々の紹介、全国大会出場のないなな部、全国高等学校総合文化祭に参加する音楽部へのサポート募金への協力をお願いと続き、田口精一(昭和23年卒)先輩が乾杯の音頭をとり、楽しい懇談の時間となりました。

各テーブルでは、鹿児島弁が飛びかい、久しぶりに会った学友同士での懐かしい思い出話、お互いの近況報告等で盛り上がっていました。懇談の途中では、三線と沖縄のエイサーの出し物があり、あっという間に終宴の時間が近づきました。新旧校歌斉唱の前に、今回の会に参加された方々から集められた募金が、小屋敷校長先生に贈呈されました。昭和27年卒の峯元研二さんの万歳三唱の後、南谷亘秀(昭和36年卒)東京同窓会副会長の閉会のあいさつがありました。南谷亘秀副会長は、母校の存続と同窓会の繁栄とは車の両輪であること、これほどの人数を集められたのは小原副会長のお陰であること等を述べ、最後に来年は250名を集めるぞ、と力強い決意表明も飛び出すユーモア溢れるあいさつで、大変盛り上がった宴が終了しました。



講演会での大坪東京同窓会長による講師紹介



同窓会懇親会での大坪本部同窓会長のあいさつ



〇〇年卒の仲間たち



今回の幹事の皆さんの合唱



懇親会での出し物



卒業年度を超えて交流を深める同窓会員の方々



サポート募金を贈呈されお礼を述べる小屋敷校長



最後は新旧校歌の斉唱です